

# 九大病院だより



## 21世紀における九大病院の役割②

本院は、教育・学術研究・高度医療という基本理念とともに、地域医療の中核として、またアジアにおける中心的な病院としてその存在意義と役割は大きいと思います。国立大学が独立行政法人化されるとともに、必然的に本院も変革を迫られており、21世紀にふさわしい病院づくりが急務であろうと考えます。

前号に引き続き、病院長にその所信を聞いてみました。

### 長い待ち時間、手術待機について

—患者さんの医療に対する不満の原点「三時間待ちの三分医療の改善」に、どのように取り組まれますか。

**名和田** この問題は大学病院の構造的な問題です。今までは各診療科が独立した形で診療を進めてきて、病院全体がバラバラでした。そうではなく、病院全体が一つとなって、より良く機能できることが大切です。職員全員が危機意識を持ち、いかに患者様に診療時間はもちろん、サービスを充実するか考えなければなりません。病院の運営などについて外部からのアドバイスを受けていますが、赤字体質を解消するためにも、サービスの充実が大切です。



なわた はじめ  
病院長 名和田 新

●対談の様子(左 病院長・右 林委員)

#### プロフィール

平成14年4月から本院病院長に就任。専門分野は内分泌代謝・糖尿病学、老年医学、分子遺伝子学。

2面へつづく...



## コラム

### おまかせ料理

外国旅行は異文化に触れながら非日常の世界で遊べる大変楽しいものです。しかし数日も経つと料理の注文が少々面倒に感じられることがあります。スープは何にするか、前菜は何にするか、主菜は何にするか、いちいち尋ねられ、その度に自分の注文を決めなければなりません。こんな時日本料理が恋しくなります。日本には「おまかせ料理」があります。和食の店で「適当にみつくろってください。」とお願いすれば、それほど当たりはずれなく美味しい食事が供されます。便利な定食もあります。

これまで、治療方針を決める患者様との話し合いの時に、「先生におまかせします。」と言われ、困ったことが幾度もあります。こと病気に関しては「おまかせ」は決してよ

### 第一内科教授 原田 実根

MESSAGE from Mine Harada

いことではありません。病気を治すための治療法は、主治医の説明をよく聞いて納得した上で自分で決めるべきだと思います。納得できない時は何度も説明を求めて欲しいと思います。ありふれた病気の場合は、大部分の患者様に同じ治療効果が期待できる標準的治療法が確立されています。しかし、標準的治療法が確立されていない場合には、いくつかの治療法の中から患者様に最も適した治療法を主治医と相談して決めなければなりません。決して「おまかせ」して良いことではないと思います。インフォームド・コンセントで大切なのは、単なる「説明と同意」ではなく納得して治療法を選択することだと思います。治療の主役はあくまでも患者様です。



引き続き

## 接遇について

——サービスに関連して、患者さんに対する医師をはじめ、病院職員の接遇も不満の原点の一つです。患者さんと医療従事者との信頼関係を高めるために肝心の事だと思いますが、

**名和田** 患者様に対しての言葉遣い、態度などは医療技術以前の問題です。人としてやさしく接することは当然の事で、医療の原点であり、それに欠けることは医師として失格です。研修医のオリエンテーションの中でも取り上げますし、継続的に指導していきます。医師だけでなく、看護師や職員に至るまで、全てに教育が必要だと思います。

## 医療事故防止対策について

——日本でもヒヤリ、ハットというインシデントも含めた医療事故が多発しています。残念ながら、今

年の二月に本院でも死亡事故が発生していますが、医療事故防止対策や教育研修などについて伺います。  
**名和田** 大変、残念なことです。患者様及びご遺族の方たちに心から哀悼の意を表したいと思います。現在、事故の原因、再発防止などについて院外の方にもご参加いただいて事故調査委員会を立ち上げ、鋭意、検討をしています。医療事故は病院として早急に対応できるシステムが必要です。情報はすみやかに病院長に届き、すぐに手が打てることが大切です。もちろん、事故防止のために日頃からの研修が必要なのは言うまでもありません。院内に医療安全管理委員会を置き、リスクマネージャーの配置、インシデントレポートの導入と分析、マニュアルの作成、職員研修など行っておりますが、事故を起こさない安全管理を徹底させることが肝心です。

(次号へつづく)

聞き手 林 道雄

福岡老人問題研究会事務局長、元西日本新聞社記者、平成14年10月から本院広報サービス委員会広報専門部委員。

## 皇太子殿下ご来院 —ロボット手術に高いご関心—



手術ロボットを操作される皇太子殿下



本学では、4月5日医学部百年講堂に皇太子殿下をお迎えし、高度先端医療開発拠点として取り組んでいるロボット手術をご紹介いたしました。御手洗康文部科学事務次官や麻生渡県知事をはじめ、梶山千里総長、中野仁雄副学長、名和田新病院長、小児外科長の水田祥代教授らがお出迎えし、会場では、先端医工学診療部長の横爪誠教授がご説明いたしました。本院は、世界で唯一、

ロボット手術トレーニングセンターとして、手術支援ロボットの「ダビンチ」と「ゼウス」の2台を設置しており、殿下はこの手術ロボットを実際に操作され、感激されたご様子でした。また、現在本学が開発中のカプセルロボットや画像誘導下ロボットシステムに関して、ご熱心に質問をされておりました。

奨学寄付金のお申し込みは

092-642-5035 本院管理課監理掛まで

# 地域医療連携室のご紹介

本年度より発足することになりました、  
地域医療連携室をご紹介します。

皆様はいろいろな病気が原因となって、本院を受診し、あるいは入院されておられることと思います。病気は、一時的な入院と治療で完全に治癒することもあります。経過は実に千差万別です。退院後もご自宅での治療が必要になる場合や地域の医療機関の協力が必要になってくることもあるかと思えます。そのような時に不安を感じなくて済むよう、いろいろと調整をさせていただくのが私たち地域医療連携室です。退院の際の様々な調整は、これまでは各科あるいは主治医ごとに行っていたと思えます。この調整を、地域の医療機関・福祉施設等の社会資源についての情報を整理することにより、病院全体でもっと

効率的に行っていこうというのが私たちの仕事です。

具体的には、退院後の在宅医療機関・介護機関のご紹介と連絡、緊急時対応のための地域医療機関のご紹介などを行っております。本院は、1,308床の大きな病院ですが、その中で皆様の個々の問題を共に考え、患者様の目線で細やかに解決のお手伝いをしていきたいと思っております。外来棟2階に相談窓口を設けておりますので、お気軽にご相談ください。

皆様と地域医療機関、本院の間の“緩衝地帯”になりたいと思っております。よろしくお願いいたします。



●地域医療連携室(外来棟2階)

地域医療連携室 副室長 牟田耕一郎(第3内科)

地域医療連携室へのご相談・お問合わせは  
092-642-5166 まで



## 病院地区 建物紹介

### 南棟①

南棟とは…  
平成14年4月に開院した本院  
の中で一番新しい建物です。

#### 南棟は宙に浮いている?!

といっても、免震構造を介して地面にはしっかり固定されています。

免震構造とは、建物と地盤を完全に切り離した状態の構造です。切り離す材料は、建物と地盤の間に鋼板と天然ゴムを主成分とする積層ゴムアイソレータ(写真参照)というものです。また、振動を早く停止させる免震用鉛ダンパー、ループ状の鋼棒ダンパー(いずれも写真参照)の三点セットで構成されています。本院南棟の免震構造は、

日本最大級で、阪神大震災クラスの1.5倍の地震にも耐えることが出来る設計となっています。患者様が安心して治療に専念でき、また少しでも快適な入院生活が送れるよう縁の下から頑張っています。



- 天然ゴム系積層ゴムアイソレータ
- U形鉛ダンパー
- ループ状鋼棒ダンパー

※奨学寄付金とは、教育・学術研究の奨励及び病院運営の助成等のため、個人・法人等から寄付金として受け入れるものです。詳しくは、左記掛へお問い合わせ願います。

# 外来診療日一覽

ご用件がありましたら、下記の診療科等に直接お電話願います。(市外局番は「092」です)

階	科名(電話番号)	初診日	再診日
1	総合診療部 (642-5914)	月～金	月～金
1	内科(初診) (642-5300)	月～金	月～金
2	内科(再来) (642-5302)		
2	心療内科 (642-5335)	月・木	火(水)金
2	神経内科 (642-5349)	火(木)金	月・水
2	循環器内科 (642-5371)	月～木	月・水
2	呼吸器科 (642-5388)	月・水	月・火 水・金
2	産科婦人科 (642-5409)	火・木	月～金
2	周産母子センター (642-5900)		
2	小児科 (642-5430)	月～金	月～金
1	第一外科 (642-5453)	火・木・金	火・木・金
1	第二外科 (642-5479)	月・水・金	月・水・金
1	整形外科 (642-5504)	月・水・金	金
2	脳神経外科 (642-5533)	月・水・金	月・水・金

階	科名(電話番号)	初診日	再診日
2	心臓外科 (642-5565)	月・木	月・木
2	小児外科 (642-5578)	月・水・金	月・水・金
2	皮膚科 (642-5596)	月・水・金	火・木
2	泌尿器科 (642-5615)	月～金	月・水・金
1	精神科神経科 (642-5640)	火・木	月(水)金
1	眼科 (642-5660)	月・水・金	月～金
2	耳鼻咽喉科 (642-5681)	月～木	月(水)金
1	放射線科 (642-5705)	月・水・金	月～金
2	麻酔科蘇生科 (642-5719)	月・水・金	月・水・金

※〇印の曜日は予約が必要です。

診療施設等	電話番号
救急部受付	642-5873
時間外受付	642-5163
総合外来受付	642-5138
入退院受付	642-5149
地域医療連携室	642-5166
収入掛	642-5169
リハビリ受付	642-5862

- 休診日…土曜日、日曜日、祝日、  
年末年始(12/29～1/3)
- 受付時間…8:30～11:00
- 外来玄関開扉時間…7:00～18:00

注

- 予約がある場合はこの限りではありません。
- 再来の方でも、1年以上受診されていない場合には、初診の曜日・時間となる場合がありますので、あらかじめ受診科「外来」にお確かめ願います。



病院にお越しの際は保険証をお忘れなく！  
※保険証の提示がない場合には、保険の取扱いができないことがありますので、予め御了承願います。

ご意見・ご感想を電子メール(ibsikak@jimu.kyushu-u.ac.jp)  
または外来棟玄関の「ご意見箱」にどしどしお寄せください。お待ちしております！